

藤野泰平様

青山キャンパス
東急病院 管理部
古川 真寿美

「男性は男性に、女性だって男性に看てもらいたい」を普通にする。

私の周りには3人の男性看護師がいます。2人は趣味の仲間です。手術室勤務、1人は私の息子でICU勤務です。男性看護師らしい体力勝負の職場です。

やはり彼らは、「なぜ男性なのに看護師になったの。」と云われることが多いそうです。また、「看護師じゃ結婚しても奥さんを養えないでしょう。」という言葉も良く聞くそうです。これは、看護師は医師の指示でしか動けないのに男がそれでいいのかとか、女性の仕事だから安月給だろうと勘違いされているのでしょうか。

医師の指示で仕事をしますが、医師に指示することもあります。医師から相談されることもあります。給料も会社員より少し高いくらいです。しかも、管理師長、部長クラスになるとかなりの高給取りです。看護師＝女性の仕事と思われるため、一つ下の仕事と思われるのでしょうか。よく考えると、女性看護師に対しても失礼な発言ですが、実は女性看護師からも聞く言葉です。

もし、私が入院した時に、男性看護師から排泄や清潔ケアをされると思うと抵抗があります。同じように、男性患者が女性看護師からのケアに抵抗を感じ、男性が男性に看てもらいたいことがあるのは当たり前の感情なのに、今まで考えたことが無いのがとても不思議です。看護師は女性だから、男性でも女性から看護されるのは当たり前とっていたのです。以前、肛門科の男性患者から手術は男性医師に変えてもらうことは出来ないかと相談されたことがあります。その時の肛門科の医師は、とても可愛らしい女性医師で恥ずかしいからというのが理由でした。医長が、かわいそうだからと男性医師に変えたのですが、「これが反対だったら、変えてないと思う。」と女性医師がつぶやいていました。

一方、介護の現場では男性が多く活躍しています。

高齢者の介助に、男性の体力的な強さが求められることが一番の理由ですが、女性の利用者が、男性の介護士だと意識してうきうきと身だしなみに気を付けたりして、いい傾向になることがあると聞きます。同性同士だと無意識になりがちなのケアも、異性に対しては気を遣うので、するほうもされるほうもいい効果が出るのかもしれない。

また、女性だけだとだらしなくなりがちな職場環境も、男性がいるときれいになる等、外面だけでなく、内面的にも異性の目があるというのはいいことではないでしょうか。

性差、言語などはもちろん、障害者と多様化しています。

医療従事者こそ、様々なニーズに沿った対応を行うことが大事なことだと思います。「男性だから男性に…」も、「女性だからこそ男性に…」も重要なのです。それが普通なのです。

数が偏ってしまうと、少数派の意見はよほど大きな声で言わないと届きません。また、届いたとしても、疎まれることさえあります。マイノリティーを強みにするのは簡単にいくことではないと思うのですが、藤野さんがあの笑顔で言われると、簡単にやり遂げてしまいそうで、頼もしい限りです。

残念ながら私の勤務する病院では、男性看護師はまだデビューしていません。藤野さんのように笑顔で古い体制を改革してくれる男性看護師が来てくれるよう、先ず看護部長と話をしてみます。